

2023 年度第 1 回研修報告書

日 程：4 月 23 日（日）

参 加：高橋、水田、平田（輝）、小西、関澤の 5 人

報告：関澤友規子

場所：鏡山の古墳から鳴谷池を廻るコース

鏡山入口の空地ではネモフィラ（ファイブ・スポット）とストロベリーキャンドル（ベニバナツメクサ）が混在



イブキジャコウソウに似ているのはオレガノ（ハナハッカ）のよう。

カスマグサも多かったです。



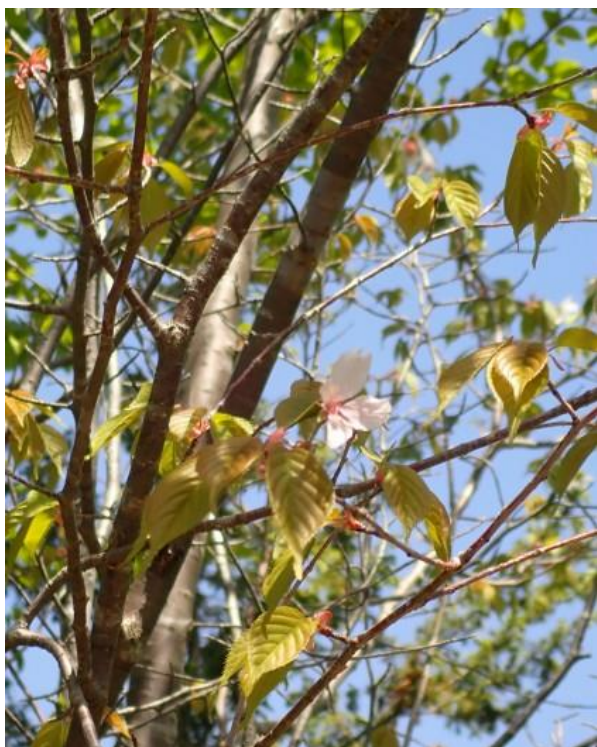
またクリの新葉も展開し、



ヤブツバキの花にメジロが蜜を吸った跡も見える。



脚の爪をかけた跡の○がしっかり残っている花が多かった。ここで余程のお食事をしたのでしょう。



カスミザクラの残り花



ミツバアケビの雌花と雄花



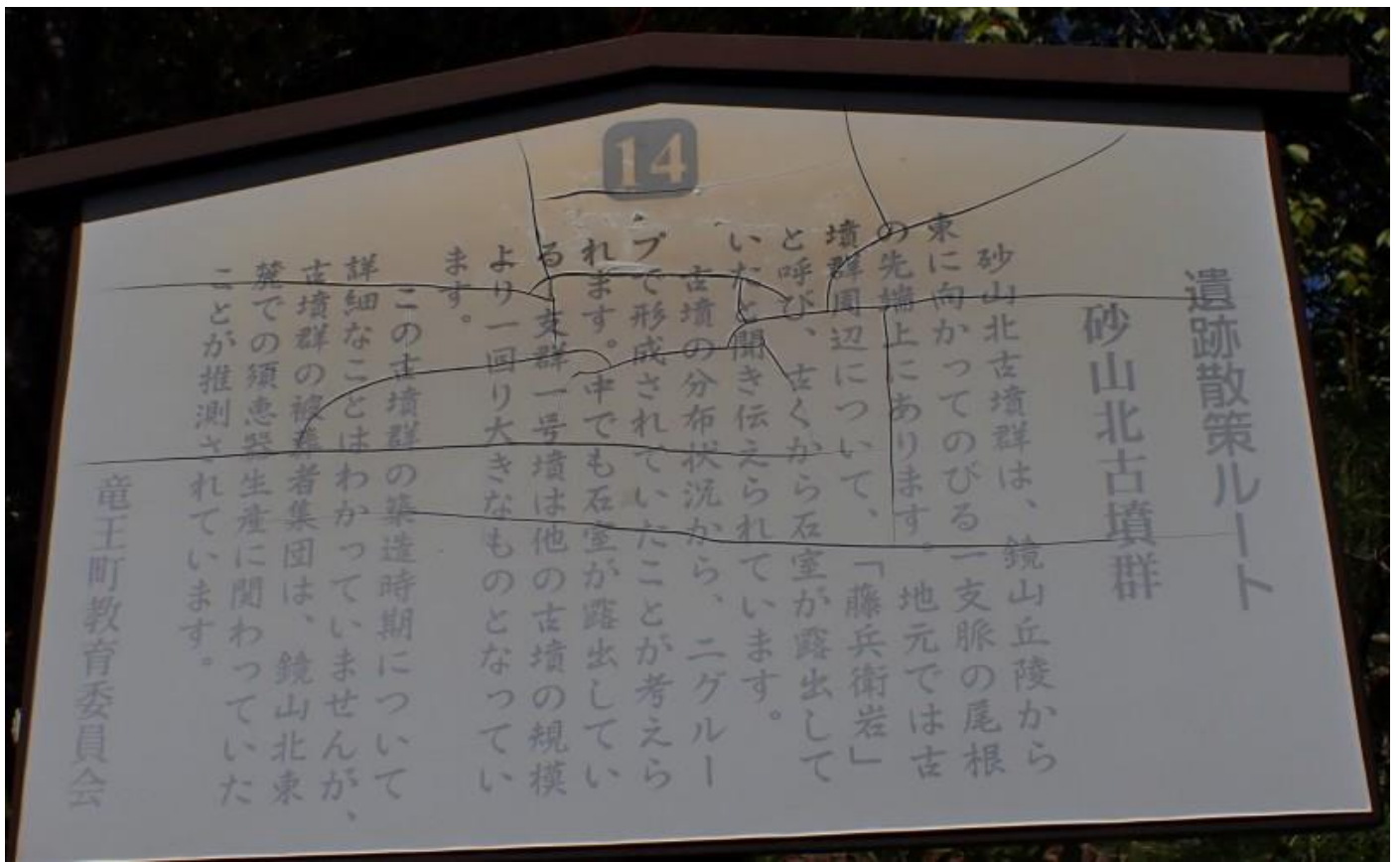
コバノミツバツツジは終盤に。



ネズ（ネズミサシ）の雄花も咲き出している



スルデの新葉も展開中。この段階では見分けのポイント「葉柄の翼」がない。
この時期はスルデもかぶれる恐れあり。



古墳跡を廻る



バラ科のカナメモチの花芽が上がっている



クロウメモドキ科の落葉低木イソノキの新緑。



モクセイ科トネリコ属のマルバアオダモの花も咲き始め。



モチノキ科のイヌツゲの花も（葉が互生）



シハイスミレの花



モウセンゴケ科同属の食虫植物・イシモチソウ。花はまだですが、補虫葉の三日月形が面白い。



同科同属のトウカイコモウセンゴケも立ち上がりつつある。



ヒカゲノカズラ科のヤチスギランも残る。谷地にある杉状のシダ



サルトリイバラ科のサルマメの花 思っていたより棘がある。

ここで見たヨツボシトンボ…水田さんより頂いた1枚



ここから鏡山へ登ります。



タデ科ギシギシ属の多年草・ヒメスイバ（スイバの帰化種）



ツツジ科スノキ属のナツハゼとコメツキムシの間



ツツジ科スノキ属のこちらがスノキの花

タカノツメの蕾が上がっている…この段階では山菜としては如何なものか。



ミヤマガズミの蕾（葉柄基部に「糸状」の托葉がない）



ここに多かったメギ科のヘビノボラズの花



花の中の雄蕊を触るとすぐ雄蕊が真ん中に寄ってくる。虫の背中に花粉をつけようとするらしい。



ニオイタチツボスミレ…花の真ん中の白が抜ける。とても良い匂い。



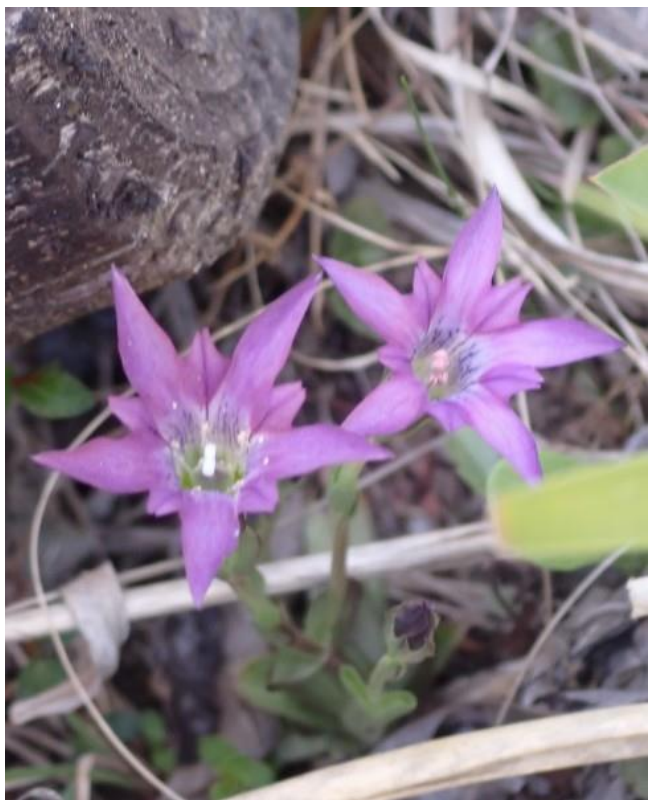
カヤツリグサ科のサトヤマハリスゲ…小穂の雌花が3～7個と少ないのが特徴らしい。



ハリンドウが多かった。また色違いの花も初めて見た。



これが普通の色ですが



この色合いもあるとは。



ハルリンドウは根元に根生葉が残る。



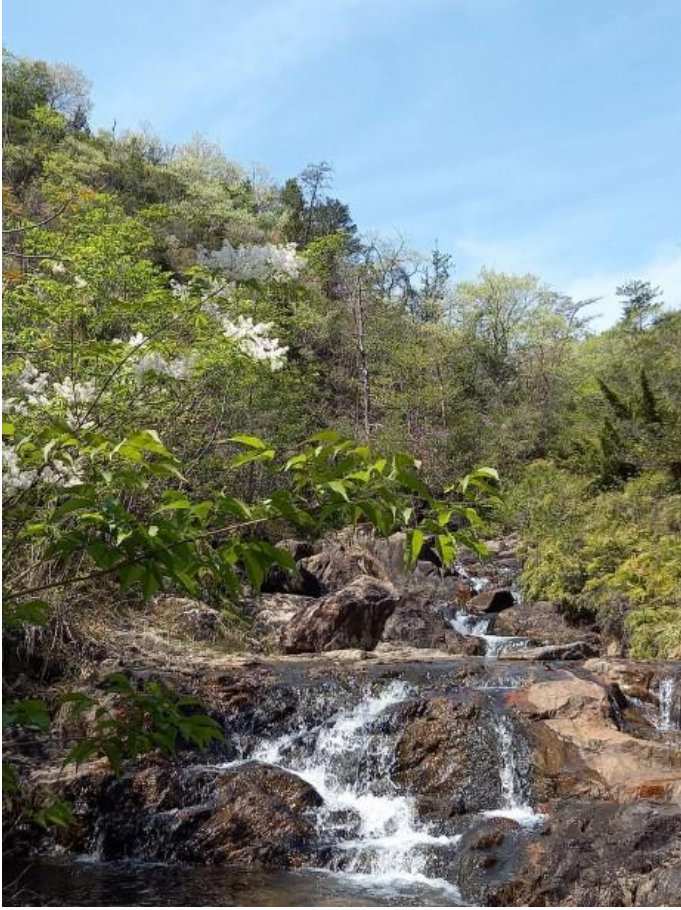
ヒメハギ科同属のヒメハギの花も。ランに似ていると思う花。



キク科のキッコウハグマの新葉もいい色ですね。これもまた多かった。

最後にこの日見たニワハンミョウ…渋い色ですね。





鳴谷溪谷と呼ばれる光景



湿性遷移が進み、アカマツなどの陽樹が生長している。



鳴谷池にて



タゴガエルの声があちこちで響き、飛行機雲が不思議な1日でした。